

5月のGlobal Sessionレポート

期日：2025年5月25日(日)10:30~12:50

場所：ガレリア3階会議室

ゲスト：張穎さん（中国出身・外国につながる子どもの支援員）

タイトル：「歩んで来た道から見えること」

①中国での生活・日本での生活 ②多様性の食生活とコミュニケーション

③それぞれの文化 ④学習の仕方・話の仕方 ⑤外国語について

⑥ 異文化理解とは？

コーディネーター：亀田博さん

参加者：18名

亀田さん（コーディネーター）：今日は人数が多いですね。では、みなさんの自己紹介からお願いします。簡単をお願いします。

M・Fさん：Global Sessionには、最初から参加していると思います。12月に手術をして少し休んでいました。最初のころは、英語で話すセッションをしていましたね。（児嶋：1999年からGlobal Sessionを開始しています。）

Y・Fさん：Global Sessionは、1年半ほど前からで、若年です。無職です。

（9月には、このGSのゲストをお願いしています。：児嶋）

M・Hさん：ちょっと足を入れただけのGSです。張穎さんと児嶋さんともつながりがあります。

M・Yさん：昨日、別の所で、日本と中国の教育制度のちがいをいろいろな人ト話したところです。

E・Tさん：2024年8月から、また亀岡に住みはじめました。JTの子会社に勤務しています。

R・Sさん：小学校の教員です。自分の学校にも外国につながる子どもさんが2人います。西別院小学校で、何か実践のヒントになるかと思って来ています。

H・Mさん：木綿の加工などをして海外にも輸出しています。亀岡市内にいます。

S・Kさん：K・Mさんの紹介で来ました。高槻在住ですが、亀岡のJAで仕事をしています。

K・Mさん：米やです。保津町の村おこしもしていて、いろいろな勉強をしています。

H・Mさん：田ノ上（張穎）さんと同じく日本語教師をしています。

T・Dさん：亀岡市で、翻訳業をしています。ブラジル出身で、ポルトガル語との翻訳です。来日3年になります。

Y・Nさん：亀岡に生まれ、今も亀岡にいます。ひまわり教室の指導者をしていて、外国につながる子どもたちの環境を理解することが大切だなと思っています。

R・Sさん：ひまわり教室の指導者で、外国につながる子どもたちの学習支援ボランティアをしています。多文化に興味があり、参加しています。

N・Fさん：ひまわり教室の指導者をしています。（市役所の職員さんで、いっしょにやって

もらっています。：児嶋)

児嶋：1999 年から亀岡市交流活動センターで始め、仙台の横瀬和治さんから学んで始めました。もう 20 年以上になりますね。亀田さんや M・F さんといっしょに始め、続けています。

亀田さん：大津市から参加しています。亀岡は少し京都市内より涼しいですね。グリーンがきれいですね。最近は米の問題もあり、なんとかなるかと思うと少しほっとしますね。今日は、また、張穎さんの話が聞けてうれしいです。

(亀田さんは、最初のころから、コーディネーターをやってもらっています。児嶋)

張穎さん：では、簡単に自己紹介から始めます。中国の遼寧省丹東市で生まれ育ち、20 年前日本に来ました。



中国 赤は遼寧省

丹東市

「丹東市（たんとう-し）は、中国遼寧省南部に位置する町。鴨緑江を隔てて朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）と接する国境の街である。中国の一番大きい国境である。

旧名は安東。朝鮮族が約 2 万人居住している。中朝貿易最大の物流拠点であり、その 7 割以上がここを通過する。

総面積： 15,290 平方公里 km²

総人口： 241.1 万人

人口密度： 157.7 人/km²

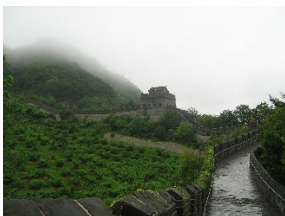


北朝鮮との一番大きな橋であり、唯一の交通機関である鴨緑江大橋。



朝鮮戦争の時に壊された鴨緑江断橋

この橋は日本によって造られた橋です。大きな船が通ると開きます。



万里の長城の東に位置し、遺跡も多いです。山も川も、海も、湖もあります。自然がとても豊かな街です。子どもの時にはくりやいちごもそのまま取ってぱくぱく食べていました。日本に来たばかりのころは、「くりが高い」と思いました。天津くりといわれていますが、70%は丹東市の生産とされています。



日本によって造られた水豊ダム

水豊ダムは遼寧省に位置し、東北地区の遼河-鴨緑江水系に属し、東北最大のダムであり、鴨緑江国家級風景名勝区の一部に成っています。面積は 535, 500 平方キロメートルです。水豊ダムは多くの優良魚類を育てており、地元の人々にとっては貴重な資源であります。



八旗山水谣

丹東市の満州族の「八旗山水谣」というオペラがあります。大きな声で踊ったり、歌ったりして、情熱があると言われています。



ティージェンズ

丹東は中国で有名な毬球の街であり、男女老若を問わず多くの人が毬を蹴るスポーツを得意としています。丹東は現在中国で、最初で唯一の毬球の街としての称号を授与された都市です。（ジェンズ（毬子）とは、中国大陸およびその周辺地域（朝鮮半島、台湾、ベトナムなど東南アジア）で行われている羽根蹴りゲームの羽根である。ジェンズを蹴ることを踢毬（ティージェン）という。現代中国では近代的なスポーツとして整備されている中国特有のスポーツです。

丹東市の特産物では山の幸、海の幸、くだものが、有名です。日本の花見は桜を見にいきますが、丹東市での花見はももの花を見ることです。ももは、15, 6種類ほどあり、なしや、ブルーベリー、いちごやまつたけなどもあります。豚肉や牛肉も有名で、新鮮な肉が食べられます。



家族でのパーティーもよくあります。週末にはよく集まり、月に一回は、麻雀やトランプをすることもあります。パーティー後には兄や妹とも温泉やカラオケに行きます。料理は鍋もおかずの器も共有して、みんなで囲むことがほとんどです。炒め物も大きな皿にひとつにして、それぞれの小皿に自分で取って食べます。



中国の小学校

中国では座り方や質問に答えるとき、手の上げ方の指導もきびしいです。昼休みは2時間あり、食事は食堂で食べたり、家に帰って食べたりしています。でも、その間に昼寝を

して休まないといけないと言われます。

これで、大体の説明を終わりますが、みなさんの質問などをどうぞ。

亀田さん：では、みなさん、どうぞ。

T・Dさん：今学校の昼寝の画像がありましたが、仕事をしている時でも休憩中は、昼寝をしてもいいのですか？

張穎さん：昼休みは、休み時間なので、何をしてもいいです。

Y・Nさん：昼寝をしないとしかられると言われましたが、授業中眠くなったらどうするのかな？

R・Sさん：昼寝の部屋はどんなのですか？

張穎さん：教室で椅子に背もたれがあつたり、倒せるようになっているようです。

Y・Fさん：2時間の昼休みは、大きくなっても習慣になるのではないですか？仕事の時は？

張穎さん：会社では、1時間の休み時間があり、外へ出てもいいし、会社で寝ていてもいいし、本を読んでもいいと思います。

E・Tさん：先ほど、ピシッと手を上げていましたが、教育の方法が少しちがうのですね。

張穎さん：座り方や手の上げ方も教育の指導のうちだと思います。

E・Tさん：自衛隊みたいだなと。実は私は以前、自衛隊に居たことがあるのです。

張穎さん：子どもたちは疲れる？私が小学生の時は、ランリュックなどもなく、編み籠を持って学校へ行っていました。1年生の時には、椅子も持って行きました。雨ももれているような教室で、でもピシッと座るように言われて。

M・Fさん：以前、中国に行った時に、食事を提供されて、すべて食べるとまた出されました。

張穎さん：お客さんが来たら、たくさん作るのが当たり前で、残ったら家の人が食べるので、足りないのは、絶対ダメなんです。

M・Fさん：それは中国全体ですか？

張穎さん：少なくとも東北ではそうですね。レストランでは友達とシェアしますが、だれかがおごる時には、たくさん頼みます。

M・Yさん：きびしく管理することで、子どもを苦しめているかもしれませんね。そのためか、富裕層の人々は日本へ来たいとか聞いていますが。

張穎さん：日本には、専門学校も、私立大学もありますからね。中国では入学しても、競争が激しいですから。

R・Sさん：小学校教員の視点から見ると、遼寧省にも、朝鮮族も、満州族も、イスラム関係の民族もいるでしょう？それはどう指導しているのでしょうか？

張穎さん：多文化共生は、大切とされています。学校の中にも多様性があり、丹東市にも39の民族がいて、学校での給食はないので、食堂で、自分でお金は払うけれども、食べる物はそれぞれが選ぶというシステムです。生活習慣として、服も尊重されてい

ます。

「ここにボタンを付けるのはどうして？」などと聞いておもしろいなあとします。

イスラム族の親でも色々居て、「外では豚肉を食べても良い」という人もいます。

M・H さん：授業は、中国の指導者がやるのですか？

張穎さん：中国語が共通語なので。

（張穎さんのお父さんは、日本人なのです。：児嶋）

張穎さん：父親は、小学校 5 年生の時に、父母と中国に行き、山東省に居ました。その後、現地の子供がいない夫婦に預かってもらい、育てて貰ったようです。中国人の母と結婚したのですが、その後、日本人ということで、反革命の家族とされ、8 年間北部の刑務所に収容されて、病気になったりしました。その間、母は日本の着物の生地を織る工場のエンジニアとして子どもを育てていました。「夫と離婚すれば給料も上がるし、家ももらえる」などと言われたそうですが、母は離婚せず、いじめられたりもしました。でも、母親はコミュニケーションが上手で、乗り切っていたようです。父も仕事にもどり、ようやく生活がいっしょにできるようになりました。

私の亡くなった夫(田ノ上)と知り合い、日本に来てコンビニなどを経営していましたが、私が中国人とわかると、ひどいことを言う日本人もいました。

M・H さん：どうやって張穎さんは、日本に来るようになったのですか？

張穎さん：2 番目の兄は通訳をしているのですが、日本に派遣された時に、田ノ上と知り合い友達になったようです。その田ノ上が、中国の兄を訪ねてきた時に、私と知り合いになりました。観光の案内などをしたら、それ以後、手紙がずっと来るようになりました。兄は、「田ノ上さんはいい人だよ」と言っていました。それからです。知り合いになったのは。

M・F さん：話はかわりますが、中国人の人は時間を守らないのが普通でしょうか？

張穎さん：普通ではないと思います。10 分以内くらいの遅れはあるでしょうが。

M・F さん：知り合って「保津川下りを予約して」と頼まれたので 10:00 に予約し、見送りに行こうと思って少し前にそこに行っていたのですが、来ないのです。それで、予約は取り消し、待つて居たら 20 分前に船は出てしまいました。そこに来たので、「もう 20 分前に出てしまったよ」というと、「いいよ」と言い、「チャーターしたら、いくら？」と聞くのです。それで、「8 万円」と聞くと、それに乗って帰ったのです。こんなのは、普通ですか？私は理解できないのですが。

張穎さん：中国人が全部、そういうわけではないですが、一部の金持ちはそういうことがあるかもしれません。私も丹東市で仕事をしていたとき、冬はとても寒いのですが、約束した時間に来ない人があり、ずっと待っていたのですが来ないので、電話をすると「すぐ着く」と言って来たのは、1 時間後でした。「寝坊して」と言って。

M・F さん：日本にもうどんやの出前を頼んで来ないので電話をすると、「もう出ました」というという話がありますが。

M・F さん：欧米人と約束をすると、5 分前には行くようにしています。日本人もルーズと思われたいようにしたいと思うのですが、会社では、4 分前までに行くようにしなければならないと教えられています。中国人は、そういう経験はしていないのでしょうか？

張穎さん：親からは、守るように言われます。会社でも遅れたら、給料から罰金というお金を引かれると思います。一部の金持ちの人は、さっきのようなことをするかもしれませんが。

N・F さん：近いですが、北朝鮮との交流はありますか？

張穎さん：こちらに朝鮮村があり、朝鮮マッサージや、朝鮮のおもち屋もあり、朝鮮族の学校もあります。国同士とは関係なく話していたと思います。

N・F さん：今は多くないのではないですか？

張穎さん：個人では今は来られないです。貿易関係の人くらいですね。

E・T さん：テレビの番組で『月曜から夜ふかし』というのがありますが、日本人の日頃の様子で外国人が驚いたことなどが出て来ておもしろいのですが、そこで、「中国人はカラスを食べるって？」というのが出ていたことがあります。蛇とか昆虫などは？

張穎さん：カラスは、悪い意味でよく使われますが、それはどうか。カラスを食べるという話は、私が聞いたことがないです。

M・H さん：日本人がジビエ(鹿)がはやって居たときに食べると驚かれたことがあります、カラスの丸焼きなどもあるのでは？

N・K さん：食用のカラスもあるようですよ。

E・T さん：中国ではカラスを食べるので、あまりいないとかテレビで見たことがあります。

張穎さん：事実かそうかは解りませんが、ネットのデジタル界で注目されて「いいね」が多いとお金がもらえるからかもしれませんね。

M・H さん：中国人の集落には犬もいないとか言われていて、それは食べられるからなどと言われることがあります、それは日本人の差別観であり、うのみにしたらだめだと思います。

Y・F さん：ごく一部の人がしたことを報道されると、みんながやっているような印象を受けることがあるのでしょうか。個人的な印象を特定としてはいけないと思います。自分の判断や視点を待つことが必要でしょう。

T・D さん：欧米には、「中国は～である」という認識があり、差別的なものがあつたが、良くなってきてはいると思います。中国文化を発散させていく必要があるでしょうね。

張穎さん：何かを食べても、食べなくても取り上げると差別感につながるがあります。羊の肉もくさいとか言いますが、それぞれの文化で地域によりちがいはあるはずですね。

Y・N さん：先ほど手の上げ方も小学校では、角度とか、昼寝の時間まで言われるという話がありましたが、そんなに厳しくても大人になると規範が乱れるのはなぜなのでしょう

う？

張穎さん：小中学校で規則を守るようにいうのは、ふつうだと思いますが、専門学的にいうと、大人になるとちがうのは、貧富の差などが見えてくるからかもしれませんね。今はあまり無いとは思いますが、中国では、先生にお金を渡して成績をよくしてもらうことなどもあったようです。

H・M さん：さきほどの保津川下りで、チャーター便に 8 万円で乗ったと言う話がありましたが、バブルがはじけた頃は、日本の大阪などでも同じ様な事があったと思います。時代がバブルで乱れて。

M・F さん：約束したことに對してルーズになるのは、習慣でしょうか？実際に富裕層でも中国人や欧米人はどうなのでしょう？

張穎さん：そういう人に今も時々会いますね。中国人だけでなく。ただ、外国にいて、そのような事をすると、「中国人は」とみられると思います。代表のように。

M・F さん：昔むかし、日本人もルーズだと、日本人を見下す例も多かったと思います。みんなが並んでいるのに、前に出てくる日本人も多くて。でも今はあまり見ないですね。

T・D さん：日本人以外の方は、「日本人は時間を守る」と思っています。金持ちとその他の子どもはいっしょの学校に行っているのですか？ブラジルではそのちがいはないですが。お金がある人しか行かない学校はありますか？

M・H さん：私立の学校もあるのではないですか？

張穎さん：上海などにはあるかもしれませんが、東北にはあまりないですね。

M・H さん：大学は国立ですか？私立の大学はありますか？

張穎さん：ほとんどが国立で、私立は少ないと思います。

M・Y さん：全国統一の試験があるでしょう？その結果で、一生が決まってしまうとか。日本は自由で、いろいろなチャンスがありますね。中国はきびしいですね。

張穎さん：日本は大学それぞれが、入試の期日もちがいますね。中国は、内容も期日も同じ試験で入りたい大学は、点数によって選ぶのです。おちたら、もうチャンスがないし、大学卒でも仕事がない人が今は多いのです。大学卒業まで義務教育みたいです。

M・H さん：日本では高校までが義務教育みたいなものですが。

S・K さん：2 時間の昼休みがあるようですが、時間の配分はどんなですか？

張穎さん：朝は、7:30 に着き、1 時間目と 2 時間目の間は、10 分から 15 分の休み時間で昼に二時間休み、夜 7:00 で授業があります。自習と宿題をすると 9:30 ころになり、大変です。

小学校の子どもたちのコミュニケーションとして、肩を叩くなどがあります。

R・S さん：たたき合うとトラブルにはなりませんか？日本の文化では話し合いをさせるなどがありますが。西別院小にも外国につながる子どもさんもありますので。

張穎さん：大井小の 3 年生の子は中国出身ですが、コミュニケーションはまだ通じないけれど、たのしく遊んでいます。中国では、あなたが大好きと言いたい時に、腕を持つ

てつかむこともあります。日本人の子は、こわいと思うかもしれません。この子の先生と話し合って、コミュニケーションの方法を考えています。

M・H さん：肩をたたくのはいいのでは？

R・S さん：強いんですよ。

張穎さん：お母さんから、「どうしたら、子ども同士がコミュニケーションができるのか」と聞かれたことがあります。

Y・F さん：今までは日本では英語が重視され、最近は小学校でも英語をやっていますね。中国での外国語教育はどうですか？英語は小学校から？

張穎さん：幼稚園から外国語教育はやっています。英語やドイツ語、日本語、ロシア語などいろいろな外国語教室があり、自分で選ぶことができます。日本に来て、外国語教育が英語だけということに、驚きました。

M・F さん：日本では今も英語だけで、その英語力があると、仕事をするときに、給料が高くなることもありますね。

張穎さん：給料が高いということは、英語力があれば、採用もされやすいということですね。

R・S さん：今までに中国人はとか、日本人はとか話が出てきましたが、ひとかたまりとして見ない方がいいですね。中国には多様な民族もいて。中国ではそれについてどのように考えているのでしょうか？

張穎さん：みんなが中国人と考えています。イスラム教の信者と言っても、ミャオ族も漢族もいるでしょう。おたがいの特徴とか大事なことを教え合っています。私のオンラインの生徒の中に、雲南省に居るミャオ族の人もいます。ラインのような機能を持つウィチャードを使ってグループ内で自由に発言しています。

R・S さん：中国人は地方によってそれぞれのコミュニティを作っているのではないですか？東北と雲南省ではかなりちがうと思いますが。

張穎さん：オンラインでもお互いに話すと仲良しになっています。日本人は、遠慮して正直に言わないこともあり、誤解することもあるようです。

Y・N さん：ひとつの地域でも 39 の民族がいるとありましたが、それぞれの文化を持ちながら交流をしているのですね。

張穎さん：子どもでも、それぞれが弁当を持って行き、分け合って食べています。

M・H さん：日本人でも遅れて来る人もあります。国でちがいを言わない方がいいのでは？

M・Y さん：単刀直入がいい場合もありますね。「今日のネクタイはいいね」と「はでね」というちがいがありますが。

T・D さん：この場合は、本当の意味を知っていたら、傷つくのでは？

H・M さん：京都には「いけずの文化」というのがありました。昔はこれが京都として有名でしたが。

T・D さん：ちがいがあるのはすばらしいとも言えますが。

R・S さん：ひまわり教室の高校生などと学習を支援していると、抽象的な言葉がわからないということが増えて来ました。「静寂」とか、「趣向をこらす」とか。

張穎さん：前から言っていることですが、日本語ができない子どもをすぐに学校に入れることは、無理だと思います。それで、学校に日本語教室を作り、まず、だいたいのことばがわかるようになってから、それぞれの学校に転入する方法が必要だと思います。先生も忙しいのに、一生懸命ですがなかなかむずかしいです。トイレの使い方も、ことばがわからないと教えられないように。夜中によく先生にメッセージが来ます。事前に日本語を勉強させる体制を早く作って欲しいと思います。

M・F さん：中国は、大きな統制された社会だと思いますが、生活の中で困ることはなかったですか？

張穎さん：独裁社会といえるでしょう。言論の自由がありません。子どもの時は、父親が日本人ということで、いじめもありました。私たちのような家族は、大学に入る権利もありません。

M・F さん：いじめられた時に、救いの手は？

張穎さん：2人の兄と妹もふたりいますが、兄たちが守ってくれました。また、母の友人達も止めに入ってくれたりしました。

M・F さん：教員免許はどのようにして取得するのですか？

張穎さん：師範大学に入って取得する免許が必要です。

亀田さん：最近、テレビで見たのですが、英検などを中国人が替え玉でしたとか、運転免許を外国で取得した場合、簡単に日本の免許が取れるとか。富士山の登山を禁止される中、登山し、救助された中国人とか。かなり出てきていますね。

M・H さん：政府が考えていかなければならない問題ですね。いろんな形でのバッシングも多いですね。

M・Y さん：個人のミスなのに、中国人だからなどと言う。

亀田さん：政府の問題として米問題もありますね。

M・H さん：娘は孝行卒業後、アメリカに留学したのですが、最初に3ヶ月間は英語集中課程に行かされ、英語を勉強しなければなりませんでした。

亀田さん：オーストラリアでもアルバイトは29才までで、大学もワーキングビザも出さないです。日本はなんでも自由でしょう？

T・D さん：日本でも大学に入るための資格は必要です。日本語能力試験の2級か3級とか。

M・F さん：アメリカで学校生活を送られた北神さんにまた、来てもらわなくてはね。

張穎さん：ひまわり教室で今年高校生になった双子姉妹は、4年生の時に日本に来たのですが、何度も埼玉県内で転校をくりかえし、3年を経ても父母も子ども達も家族4人とも日本語を話せない状態で亀岡に来ました。高校に入学しましたが、今度は中国語も身に付けていないので、中国語で説明してもわからないことが多いです。

M・H さん：中国人やクルド人などがたくさんいる地域もありますが、日本の政府はあとま

わしにして何もしてこなかったことが多いですね。

M・F さん：インバウンドは京都の祇園などでも問題になっていますね。

T・D さん：観光公害とか。

亀田さん：観光公害は、イタリアでもあります。ベネチアなどでトイレが足りないとか。

政府は宿泊費も上げて、美術館に使うとか聞いています。日本は「多い」というだけで何も手を打たず、祇園などでも、英語の看板しかないし。

M・H さん：亀岡の花火の時も「立ち止まらないでください」と大声で言っている、通じていないですね。外国人には。英語、中国語、韓国語くらいで書かなくては。

張穎さん：中国にも少数民族が多いのですが、いろいろやっています。日本は、「だめ」というだけでわからないですね。

T・D さん：私の家はテレビがないのですが、「米問題」とはなんですか？

M・H さん：5 k g の米が 4000 円以上になっているので、その問題ですよ。

T・D さん：確かに高いですね。どうなっているのですか？

M・H さん：減反政策で米の収穫量が減っているのも理由でしょうが。JA の問題化も。トランプさんは「アメリカの米を輸入せい」と言っていますね。

T・D さん：亀岡のサーキュラー亀岡で、おいしいお米を食べました。

M・H さん：亀岡の米はおいしいですが、広い田んぼがあっても跡継ぎがいなくていろいろな問題がありますね。

T・D さん：外国人が農業に興味を持ったら、できますか？

M・H さん：できるでしょう。

亀田さん：移住するひともいますね。

M・H さん：K・M さんがやって居る活動もあるので、紹介もしてくれるでしょう。

T・D さん：農業には興味があります。料理も好きですし。

児嶋：K・M さんのところに行ってみたらどうですか？

亀田さん：そろそろ 1 時ちかいので、今日はこれで終わりにしましょう。

2025 年の Global Session

1 月 25 日(土)：10：30～12：00 中野恵二さん 383 回目

(保津川こなこな研究所・保津・むらカフェプロジェクト主宰)

2 月 11 日(火・祝)：周悦さん(中国蘇州市出身・亀岡市在住) 384 回目

3 月 29 日(土)：濱田雅子さん(アメリカ服飾社会史研究者・神戸市在住) 385 回目

4 月 27 日(日)：山本咲さん(多文化センター・カナダより帰国) 386 回目

5 月 25 日(日)：張穎さん(亀岡外国につながる子どもたちの支援スタッフ) 387 回目

6 月 22 日(日) 1：30～3：00：堤健介さん(映画脚本家)

7 月 27 日(日)：テオ・ディアスさん(ブラジル出身・翻訳家)

8 月：大橋晶子さん(元新聞記者)

9 月：畑 佳延さん（元商社員）
10 月：濱田雅子さん（アメリカ服飾史研究者）
11 月：日置道代さん
12 月：藤井那菜さん（亀岡市在住）
1 月：ノアさん（亀岡市国際交流員）
2 月：未定
3 月：未定